

# 直売イチゴ経営におけるスマート農業実証事業の実施について

スマート農業の導入を促進するため、国が令和2年度事業として公募した「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」に応募し、下記内容により採択されました。

生産から販売まで一貫したスマート農業（スマートフードチェーン）を展開し、高収益イチゴ経営を実証します。

## 1. 実証する課題名

「直売イチゴ経営におけるスマートフードチェーン構築によるデータ駆動型高収益経営体系の実証」

## 2. 事業主体と構成員

事業主体：新しい時代を切り開く直売型スマートイチゴ生産・経営モデル実証コンソーシアム

構成員：茨城県農業総合センター（代表機関）

茨城県県北農林事務所常陸大宮農業改良普及センター（共同実証機関）

PwC あらた有限責任監査法人（実証管理運営機関、共同実証機関）

（株）サカタのタネ（共同実証機関）

（株）ルートレック・ネットワークス（共同実証機関）

（株）イノフィス（共同実証機関）

つづく農園（生産者）

## 3. 事業の概要

(1) 対象 直売主体のイチゴ経営

(2) 実証する技術

- 中小規模施設に適した環境制御**：「UECS」や「ゼロアグリ」などの制御機器を使って、温度管理や二酸化炭素施用及びク라운冷却などを行い、収量を高めます。
- 労働環境の改善**：アシストスーツを使って定植・収穫作業の負担軽減を図り、作業時間の削減を目指します。
- 営農情報管理**：作業記録ツール「アグリノート」や販売データを管理できる「エアレジ」を使って、営農情報の蓄積とその情報解析による合理的な経営を実証します。
- 需要予測**：携帯電話の位置情報等の統計データを活用して集客予測を行ってイチゴ需要が増減する時期を把握し、冷蔵貯蔵等の技術を組み合わせて需要に応じた出荷量に調節します。また、需要に応じて販売先や包装を変更して販売方法の最適化を図り、販売単価の向上を目指します。

(3) 目標

- 生産から販売まで一貫したスマート農業の展開により、所得の6割増
- 中小規模パイプハウスにおける低コスト環境制御により、収量の3割増

(4) 事業期間 令和2年度～令和3年度

## 4. スマート農業実証プロジェクトパンフレットについて（本取組は、下記URLファイルの2ページ目です）

[https://www.affrc.maff.go.jp/docs/smart\\_agri\\_pro/attach/pdf/smart\\_agri\\_pro-59.pdf](https://www.affrc.maff.go.jp/docs/smart_agri_pro/attach/pdf/smart_agri_pro-59.pdf)